

今回の派遣事業で気づいたホバートと高松の違いについて

英明高等学校

普通科 2 年 藤田心菜

私には、昆虫館の学芸員になるという夢があります。そのため、今回の派遣事業では、私が住んでいる高松市とホバート市の生態系の違いに着目しました。

高松とホバートを比べて気付いたことは、ホバートは高松と比べて見られる生物の種類が全く違うということです。

今回は、主に人の居住地となっている部分で比較してみたいと思います。

高松で、普通に生活している中で見られる動物は、スズメやカラス、ヤマバト、サギ、トカゲなどです。今挙げたものから分かるように、高松で見られるのは爬虫類や鳥類がほとんどで、哺乳類は殆ど見られません。

それと比べてホバートはどうでしょうか。

キバタン、ゴシキゼイガイインコ、カモメ、ワラビー、などが人の居住地で簡単に見ることができます。また、ホストファミリーによると、夏には家の庭にワラビーやハリモグラ、ポッサムが現れるそうです。今挙げたように、ホバートでは、鳥類の他に、哺乳類も多く見られます。私達が動物園でしか見られない動物たちが、身近な存在として生活の中に当たり前存在するのです。

また、人と自然や生物との関わり方にも大きな違いがありました。

私が感じたことを抽象的に言うと、「一見、自然との関わり方はあまり変わらないが、高松は人が作った街の中に自然がある感じ、ホバートは自然の中に人が住んでいる感じだ」ということです。

具体的にいえば、高松は平地が多いこともあってか、人の居住地と自然はそばにありながらも分けられているような感じがあります。それと比べてホバートでは、山が多いこともあって、山の斜面に建っている家も多く、人と自然は互いに近くにあり、同じ立場にいるように感じられます。

このように、今回の留学で、ホバートと高松では、そこにいる生き物だけでなく、自然と人との関わり方にも違いがあるのだということに気がつきました。今までは、生態系という言葉を聞くと、つい人間がその一部だということを忘れがちでしたが、今回の派遣事業で生態系の中で人間も大きな役割を果たしているということを知ることができました。

今回の派遣事業では、文化面、生活面についても学べることが多くあり、私にとってとても貴重で、新鮮な体験になりました。今回の派遣事業で得た学びや発見を、将来に活かしていけるよう頑張っていきたいと思います。



▲7月31日 現地の高校生に日本文化を紹介している様子